

2019年度
学校関係者評価報告書
(2019年4月1日～2020年3月31日)

2020年7月15日

学校法人東北文化学園大学
東北文化学園専門学校

「2019年度自己点検・自己評価報告」に伴う学校関係者評価について

「2019年度東北文化学園専門学校自己点検・自己評価報告」の結果に基づき、学校関係者評価委員の意見を取り纏めましたので、ここに「2019年度学校関係者評価報告書」として公表いたします。

本来であれば数回の委員会を開催し、合議、検討の上、報告書を作成すべきものではありませんが、新型コロナウイルス感染対策を鑑み、電話やメール、文書等による非対面での意見集約により2019年度の報告書を完成させた次第です。

本報告書を纏めるにあたり、東北文化学園専門学校教職員の皆様が、コロナ禍における学生の健康チェックや遠隔授業対応等これまでとは全く異なる環境下で多忙を極める中、学校関係者評価委員間の仲介を積極的に担っていただき、7月中に公表できましたことに深く感謝申し上げます。

2019年度の自己点検・自己評価報告は、「評価3」から「評価4」へ改善した項目が、昨年に比し3項目増えたことについて、学校関係者評価委員会の意見を学校全体が真摯に受け止め、日々改善に取り組まれた結果であり、「基準1」から「基準10」の自己評価報告について、取り組み状況や課題の改善方策も含め全て適切であると評価いたしました。

各委員共通の意見として、一人でも多くの入学者の確保・入学定員の充足に向けた尚一層の取り組みが第一であることを、今年度も引き続きお願いするものです。経営の安定こそが教員のモチベーションに繋がり、更なる教育の質の向上に結び付いていくものと確信しております。

実際には次年度の報告になるものですが、全地球的な脅威である新型コロナウイルス感染禍において、貴校が学生の健康を第一義に置き、新たな遠隔授業対応システム等の導入をいち早く行っていることに確かな安心を覚えました。

学生を中心軸に置いたより良い学校づくり、更なる教育の質の向上に邁進されることを期待するとともに、私共ができることについて協力を惜しまないことをお約束させていただきます。

2020年7月15日

東北文化学園専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 中里 仁

1. 学校関係者評価委員会

2020年6月23日～7月10日

今年度は新型コロナウイルス感染症対策の観点から会議方式をやめ、「2019年度自己点検・自己評価報告書」の学内承認を得た2020年6月23日から7月10日までの期間で、主に電話やメール、文書等による意見集約を行っています。 ※資料は各委員に事前配布

2. 学校関係者評価委員

【外部委員】2020年度

委員長	中里 仁	NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター理事 (社会福祉法人東北福祉会 せんだんの杜 総合施設長)
委員	栗原 憲昭	宮城県建築士事務所協会名誉会長 (盛総合設計 会長)
委員	曾根 利恵	宮城県診療情報管理研究会幹事 (仙台赤十字病院 診療情報管理課主事)
委員	郡山 知之	東北大学アイバンク理事 (株)日本眼科医療センター 代表取締役)
委員	須藤 智裕	東北文化学園専門学校同窓会 理事

オブザーバー：【自己点検及び自己評価運営委員会】

委員長	佐藤 直由	校長
副委員長	熊谷 猛	教頭
委員	二本柳 淳子	医療技術学科長
	渡辺 英隆	総合福祉学科長
	宇川 雅晴	医療ビジネス学科長
	増田 学身	建築デザイン学科長
	馬場 健二	専門学校事務部副部長

3. 評価対象期間

2019年度

2019年4月1日～2020年3月31日

4. 実施方法

- (1) 東北文化学園専門学校の「自己点検および自己評価運営委員会」が作成した、「2019年度自己点検・自己評価報告書」について、2020年6月中に学校関係者評価委員全員に事前配布し、各委員の意見の取りまとめをお願いいたしました。
- (2) 新型コロナウイルス感染禍のため委員会は開催せず、各自の意見確認を行い、必要に応じて自己点検・自己評価をまとめたオブザーバーに対して状況説明や補足を求めながら意見集約を行い、それぞれの基準について改善方策も含め適切であったか評価を行いました。
- (3) 基準1～10までの各委員の意見については、全て公開することとしています。

「2019年度対象」学校関係者評価報告書一覧

1. 自己点検・自己評価の項目

2019年度は以下の基準1～基準10になります。

- 基準1 教育理念・目的・育成人材像
- 基準2 学校運営
- 基準3 教育活動
- 基準4 学修成果
- 基準5 学生支援
- 基準6 教育環境
- 基準7 学生の募集と受け入れ
- 基準8 財 務
- 基準9 法令等の遵守
- 基準10 社会貢献・地域貢献

2. 評価項目に対する評価

評価は、1～4の点数で記載しております。

4：適切 3：やや適切 2：やや不適切 1：不適切

基準1 教育理念・目的・育成人材像		
1-1	理念・目的・育成人材像	
1-1-1	理念・目的・育成人材像は、定められているか	4
1-1-2	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4
1-1-3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4
1-1-4	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4

学校関係者評価—適切

- ・御校の教育理念「常に時代の超勢に即応し、実践力に成り得る技術の修得と知識の涵養を図り～」まさにこの理念こそが御校の社会的役割と確信しております。
- ・その目標達成において掲げられた3つの目標全てが、重要かつ不可欠な事項ではありますが個人的には「1. 豊かな人間性をもつこと」のできる教育、人間の生き方、逝き方の在り様を学べる（感じ考え実践する）教育プログラム確立が必要であると考えております。
- ・併せて国際的な視点も重要であります、「国内の地域社会・地域福祉」の現状と課題について学ぶ機会が増すことを希望します。
- ・文部科学省の方針指導の結果、難しいとは思いますが使用するか否かの是々非々についても根拠性に欠けますが、「あまりに多用されるカタカナ英語、又は和製英語（キャリアアップ、インターンシップ、ス

ペンチャリスト、スチューデント・ジョブ等)の弊害『本来の日本社会における言葉の意味や役割をはき違える』恐れ」について教員は意識しながら学生に言葉の意味を教えることも望みます。

- ・「どんな社会人（独立した大人）に成りたいのか」「その職業について何のため・誰のために役だてたいのか、目指すのか」。そんな「当たり前（基本的）」の教育時間が、このような混沌とした時代・世界だからこそ一層必要でないかと考えます。
- ・今後の改善点にもあります「業界・企業ニーズ（人財を含め）の把握」がポイントと考えます。
- ・保護者に対し「福祉や介護、保育」の現状について更に具体的に理解してもらうことが必要になると考えます（学生確保の意味も含め）。
- ・OB、OGへの繋がり強化も望みます。
- ・他大学においても「実学教育」の重要性に目を向けております。更なる教育内容の充実を望みます。
- ・社会のニーズや学生確保の点から「教育課程の再編成（取得資格の枠を広げる等）について理解はできませんが、枠を広げることで逆に御校の「特色」が薄れる危険性もありますので慎重な検討を望みます。
- ・専門学校特性から職業実践が最大の目的となっていると思いますが、社会に出てから即戦力となり得る人格形成も期待しています。
- ・実社会に対するキャリアパスの構築について、資格取得はもちろん、入職後のキャリア形成や人生プランを考えることができる教育を期待します。就職後の離職率の低下にもつながると考えます。

基準 2 学校運営		
2-2	運営方針	
2-2-1	理念等に沿った運営方針を定めているか	4
2-3	事業計画	
2-3-1	理念等を達成するための事業計画を定めているか	4
2-4	運営組織	
2-4-1	設置法人は組織運営を適切に行っているか	4
2-4-2	学校運営のための組織を整備しているか	4
2-5	人事・給与制度	
2-5-1	人事・給与に関する制度を整備しているか	4
2-6	意思決定システム	
2-6-1	意思決定システムを整備しているか	4
2-7	情報システム	
2-7-1	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	4

学校関係者評価—適切

- ・ 社会の要望、変化に即応した中期目標・中期計画の策定は必須であり、目標・計画を達成できる教職員の責任と役割を重視しているところが評価できます。
- ・ 上記とも関連しますが「運営方針の実現」には執行部を含めた全教職員の共通認識が必要であり、更なる徹底を希望します。
- ・ 一般業務においても、教育内容においても効果的な見直しが重要であり、その実行を望みます（仕事が個人に偏らない見直しを含め）。
- ・ 本報告書に記載の通り、「事業計画の執行、進捗管理状態及び見直し」の時期を明確にすることが重要と考えます。
- ・ 事業計画策定メンバーの入替は重要であると考えます。
- ・ 改正が必要な規程が増すなか、迅速な対応が望まれます。
- ・ 人事・給与制度については運営する各学校法人が定める諸規程等に基づくものであり、規程の整備が重要であると考えます。
- ・ 是々非々は別とし、今回のコロナ渦におけるオンデマンド配信や平時におけるPCシステムの役割は大きな比重を占めるものと考えます。
- ・ 働き方改革を踏まえた教職員の残業時間管理、負担軽減、常勤・非常勤講師の確保が急務と思われれます。
- ・ 今年度は新型コロナウイルスの対応もあり、情報システムの利用を一段と求められると思います。オンライン会議などの環境整備の構築を期待します。

基準3 教育活動		
3-8	目標の設定	
3-8-1	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方法を定めているか	4
3-8-2	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4
3-9	教育方法・評価等	
3-9-1	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4
3-9-2	教育課程について外部の意見を反映しているか	4
3-9-3	キャリア教育を実施しているか	4
3-9-4	授業評価を実施しているか	4
3-10	成績評価・単位認定等	

3-10-1	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4
3-10-2	作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4
3-11	資格・免許の取得の指導体制	
3-11-1	目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4
3-11-2	資格・免許取得の指導体制はあるか	4
3-12	教員・教員組織	
3-12-1	資格・要件を備えた教員を確保しているか	4
3-12-2	教員の資質向上への取り組みを行っているか	4
3-12-3	教員の組織体制を整備しているか	4

学校関係者評価一適切

- ・今後の改善方針に示されておりますが、業界のニーズを踏まえた意見を教育に反映させることが重要であると考えます。
- ・達成レベルに満たない学生に対するきめ細やかな指導（難しいが）が今後増えることを念頭においたスタッフ体制が重要になるのではないのでしょうか。
- ・課題にもある、学科による幅広い専門性の確認と、学生の主体性をいかに伸ばすかが重要になると思います。
- ・高等教育の修学支援新体制づくり並びに評価システムの構築等、大変な業務作業量では有りますがよろしく願いいたします。
- ・記述にもあるように「多様化した学生」への個別指導が大きな課題と考えます。
- ・学生による授業評価アンケート結果も偏りをみせる場合も多いのではないかとと思いますが、非常に重要であると考えます。
- ・教職員の学科毎の最新情報の入手も必要ではないかと考えます。
- ・実習において、患者さんや実習先の職員とのコミュニケーションに課題を感じる学生が散見されます。接遇などの実習前指導はあるかと思いますが、より個人へのサポートを充実することで実りある実習に繋がると考えます。

基準 4 学修成果		
4-13	就職率	
4-13-1	就職率の向上が図られているか	4
4-14	資格・免許の取得率	
4-14-1	資格・免許取得率の向上が図られているか	4

4-15	卒業生の社会的評価	
4-15-1	卒業生の社会的評価を把握しているか	3

学校関係者評価一適切

- ・本来の学びは資格取得が最大の目的ではないと思いますが、専門学校使命として更なる指導方法の見直しを期待しています。
- ・社会福祉領域においても高齢者から障害児者への就職希望者も増えている現状を踏まえ、「それぞれに合った」指導の強化は必要と考えます。
- ・基礎学力と資格取得率は密接で大変なご指導だと思いますが期待します。
- ・長期的運営を念頭に置いた場合、卒業生の社会的評価は大きなものとなりますので、様々な情報収集を望みます。
- ・資格取得は専門学校の特性から最大の目的になっていると思しますので、教職員の更なるサポートを期待します。

基準5 学生支援		
5-16	就職等進路	
5-16-1	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4
5-17	中途退学への対応	
5-17-1	退学率の低減が図られているか	4
5-18	学生相談	
5-18-1	学生相談に関する体制を整備しているか	4
5-18-2	留学生に対する相談体制を整備しているか	非該当
5-19	学生生活	
5-19-1	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4
5-19-2	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4
5-19-3	学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	4
5-19-4	課外活動に対する支援体制を整備しているか	4
5-20	保護者との連携	
5-20-1	保護者との連携体制を構築しているか	4
5-21	卒業生・社会人	
5-21-1	卒業生への支援体制を整備しているか	4
5-21-2	産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3
5-21-3	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	4

学校関係者評価一適切

- ・御校独自の奨学金支援制度や学納金免除制度の強化を望みます。
- ・学生にとってのサークル活動は貴重な思い出と体験であり、更なる強化と予算確保等望みます。
- ・抽象的表現ですが、「御校に入学すれば希望の仕事に就ける」「希望の仕事を見つけるには御校に入学する」といった、PR媒体（ユーチューブやOB、OGによる体験講義）等増やしてはどうでしょうか。
- ・メンタル面による退学を防止するのはなかなか難しく先生方のご指導に頭が下がります。ミスマッチによる中途退学については改善策に挙げられる策を積極的に実施して欲しいと思います。
- ・担任以外の学生相談の専門職の必要性を強く感じています。
- ・極端な表現かもしれませんが、「ひとり親家庭」が増加するなか経済的理由で学べぬ学生も増す現状等、独自奨学金制度の強化を切望します。偏見かもしれませんが、特に女子学生の親の生活への不安は大きいと思われまます。
- ・貴校のみならず保護者への対応は年々難しくなっていると思います。何を以って・誰を以って「専門家」と判断するか難しい部分ではありますが、学外の専門家の協力は非常に重要だと痛感しています。
- ・同窓会の運営は人間関係を含め難しい部分も多いと思いますが、必要かつ重要な事であり、より充実した運営を期待しています。
- ・専門学校はしっかりと目的意識を持った学生が多く入学していると思います。進路相談等十分に支援できるように環境整備をお願いします。
- ・学生相談体制を評価します。相談体制の充実が退学につながる要因となる経済的困窮や健康面の不安を取り除き、退学率の減少に期待できると思います。
- ・新型コロナウイルス感染症により、経済的に困窮する学生に対しての支援策を期待します。
- ・最前線の現場で活躍している卒業生と学生の交流機会が増えることにより、学生の学習意欲やキャリア形成につながると考えます。

基準 6 教育環境		
6-22	施設・設備等	
6-22-1	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4
6-23	学外実習、インターンシップ等	
6-23-1	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3
6-24	防災・安全管理	

6-24-1	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4
6-24-2	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4

学校関係者評価—適切

- ・ 姉妹大学との更なる連携を強く望みます（学食も含め）。
- ・ 教室によっては「視聴覚教材用映像機器（テレビ等）」が小さすぎることもありますので、教育効果を高めるためにも更なる充実を切望します。施設・設備等も教育目線で点検、充実を図ってほしいと思います。
- ・ 学外実習・インターシップとも課題に挙げられたとおり「双方教育的効果」についての再検討が必要であるという判断に同意します。
- ・ 医療の側面ばかりではなく、福祉に直結した様々なフォーラム、セミナー等の実施も、ぜひ検討して欲しいと思います。
- ・ 防災・安全管理については全国的な課題であるため、徹底した「訓練」の繰り返しが重要であり貴校の取組を支持します。また、想定別マニュアルの定期的な改訂と更新も必要だと思います。
- ・ 建築設計を総合的に構築できるソフトの更新を含め、さらに拡充すべきと考えます。
- ・ 学生が建築やインテリアの現場で、実習とは別に経験を積むことができるインターンシップを強く望んでいます。長期間でなくとも体験をプログラム化することに対して企業として協力したいと考えます。
- ・ 最新の環境で教育が行えるように戦略的・計画的な取り組みを期待します。
- ・ どのような企業でも情報システムを利用することから、学校においてもより一層の情報システムの充実を期待したいです。

基準 7 学生の募集と受け入れ		
7-25	学生募集活動	
7-25-1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4
7-25-2	学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	4
7-26	入学選考	
7-26-1	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4
7-26-2	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4
7-27	学納金	
7-27-1	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4
7-27-2	入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取り扱いを行っているか	4

学校関係者評価—適切

- ・今後の改善点に挙げられたとおり「経済的困難」を抱えた学生への新たな支援策が募集・受け入れのカギになるものと思います。
- ・学生募集活動に関して、オープンキャンパスやホームページ、パンフレット等、ここ数年来非常に充実してきています。福祉分野に身を置くものとして、高校教員や保護者に対する「福祉職の定着した悪しき風評」を、例えば具体的な年収や数字で説明し更に理解を図ること等、是非加えて欲しいと考えます。
- ・記述のとおり、オープンキャンパスの「内容」の充実と目的の明確化の再検討についてこれからも継続して欲しいと思います。
- ・入学選考基準を明確化することは当然だが、「輝ける者未来賞」の創設は興味深く有効と考えます。
- ・特別な配慮を必要とする学生保護者との入学前の連携強化に期待しています。
- ・学納金に関しては教育者の質の担保、財務と直結するため難しい問題ですが貴校の努力に期待します。
- ・少子化の影響は避けられない中、学生募集への取り組みを拡大させていくことが大切だと考えます。
- ・少子化が進み学生を集めることが難しい現状で「専門学校」という特徴を活かした募集を行うことが必須だと思います。
- ・仙台市内に医療事務系の学科を持つ専門学校が多く存在する中で、他との差別化をして新規学生を集めるためには、貴校の特徴が十分に伝わる募集が必要だと思います。

基準 8 財務		
8-28	財務基盤	
8-28-1	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3
8-28-2	学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4
8-29	予算収支計画	
8-29-1	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4
8-29-2	予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4
8-30	監査	
8-30-1	私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4
8-31	財務情報の公開	
8-31-1	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4

学校関係者評価—適切

- ・記載の通り、安定した法人経営には専門学校単独での収支状況の改善が必要であることは言うまでもありません。特記事項に記載された「法人全体としての学生募集戦略」は特に重要なものと考えます。

- ・至極当然の話ですが、財務基盤は入学者の人数で決まります。「御校に入学すれば希望の職に就ける」特色を打ち出し入学者の確保に努めて欲しいと思います。
- ・福祉領域について、遅ればせながら厚労省も介護士に対する給与の見直し（暫定的だが）を始めている現状です。全国的に低迷している介護福祉士の学生募集のチャンスは「具体的年収やキャリアアップ」を可視化することも一考ではないでしょうか。
- ・予算の策定について入学者が増えない限り改善は難しいのが現状です。教職員が一丸となり財務について検討する「風土」が重要になるのではないかと思います。
- ・これからも継続して適正な監査の実施と情報公開をお願いします。
- ・学生確保が不可欠だと思います。学校の特徴を出し多くの学生に選ばれる戦略が必要と考えます。
- ・財政基盤の安定は、働いている職員のモチベーションにも必須だと考えます。

基準 9 法令等の遵守		
9-32	関係法令、設置基準等の遵守	
9-32-1	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4
9-33	個人情報保護	
9-33-1	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4
9-34	学校評価	
9-34-1	自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4
9-34-2	自己評価結果を公表しているか	4
9-34-3	学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
9-34-4	学校関係者評価を公表しているか	4
9-35	教育情報の公開	
9-35-1	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4

学校関係者評価—適切

- ・引き続きコンプライアンスに対する方針の明確化とガイドラインの遵守をお願いします。また、ハラスメント関係のガイドラインの作成と明確化、「公益通報」の今後の検討及び個人情報保護の徹底と管理に期待しています。
- ・学校評価をありのままホームページ等で公開することはとても良く、適切だと考えます。
- ・適切に学校関係者評価委員会を開催して、委員の意見を反映していると考えます。
- ・法令に関しては定期的なチェックが必要だと思います。

- ・学生への個人情報保護や情報リテラシー教育について期待します。特に医療業界では個人情報を取り扱うため、学生のうちに意識付けがしっかりされていると安心します。

基準 10 社会貢献・地域貢献		
10-36	社会貢献・地域貢献	
10-36-1	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10-36-2	国際交流に取り組んでいるか	3
10-37	ボランティア活動	
10-37-1	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4

学校関係者評価一適切

- ・東北文化学園フォーラム内容の充実と地域住民の積極的参加は評価に値するもので継続開催をお願いします。
- ・地域清掃ボランティア等、地味ではあるが「継続は力なり信頼なり」。この取り組みを高く評価します。
- ・貴校単独ではありませんが、大学と同一キャンパスにある立地条件を生かし、地域のさまざまな意見を取り入れ共に活動している現状を高く評価します。
- ・留学生の受け入れや国際交流は有効な教育的（場合によっては経済的）効果もたらす半面、難しい課題が存在するのも事実です。しっかり時間をかけ継続的な検討をお願いします。
- ・ニーズに即さぬ活動は逆効果であるため、記載のよう社会福祉協議会や社会福祉法人との尚一層の連携強化を望みます。
- ・ボランティア活動等大きく社会に貢献できることだと思います。単位として認め評価してもよいのではと思います。
- ・どのような業種でも「地域との繋がり」がキーワードになりつつあります。地元地域への学校教育への理解が、良い学校運営に繋がると考えます。